

平成25年度 五泉市社会科部 活動報告

部長 立川 徹也

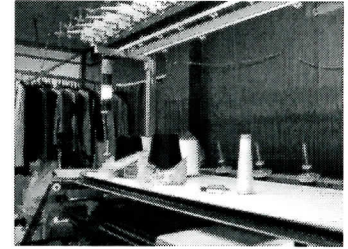
1 活動のねらい

社会科に関する地域素材を探り、その教材化を図る。

2 活動内容

(1) 3年生「調べよう 物を作る仕事」の教材開発に関する地域巡検 巡検先 (株)カワノ (所在地 五泉市太田)

五泉市の地場産業であるニット産業。日本一の生産高をほこるニット産地ではあるが、事業所数は年々減少し、生産高の凋落も著しい状況になっている。そのような中であって、(株)カワノではニットの新たな可能性を切り拓くため、シルクの糸を使用してセーターやワンピース、カーデガンなどの製造を開始した。さらに「からむし(苧麻)」や「和紙」をシルクと組み合わせてマフラーなども生産している。



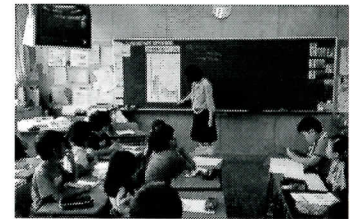
こうした新しい素材による、これまでにない機能と質感をもたせた製品作りが、今後の五泉ニット産地の可能性を高めようとしている。こうした生産の現場で、意欲的に努力や工夫を続けている人たちが五泉産地にいることを教材化し、ぜひ子どもたちに伝えていきたいと感じた巡検になった。

(2) 授業研究

① 単元名 「見直そう わたしたちの買い物」 五泉南小学校 3年 斎藤明子教諭

② 協議会の概要

買い物調べでは、その店で買い物をした理由を調べさせておくことが大切だ。それは、その店の良いところが見えてくるからである。また、この調査のまとめからは、商品を売るための店の工夫や立地条件、その他の要因を考えることができるからである。

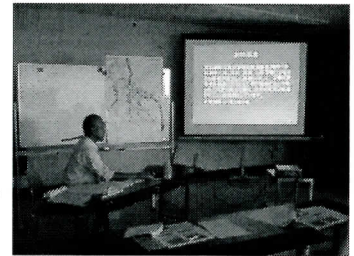


本単元では、買い物をする消費者側の視点から、販売者側の商品を売るための工夫や努力へと思考をつなげて、発展させたり深めさせたりしていくことが大切である。

(3) 4年生「昔から今へと続くまちづくり」に関する研修会

講師 新潟地域振興局新津地域整備部 工務課 渡辺様

五泉市の社会科副読本では、地域開発の例として、早出川、能代川、阿賀野川の改修が取り上げられている。その中から、近年の河川改修によって大きくその姿を変え、そして現在も工事が継続中の、能代川の河川改修について説明を受ける機会を得た。



説明会では、能代川の河川としての特性に起因する洪水が繰り返されてきた歴史、それに対しての捷水路工事を中心とした大規模な治水事業。そして、28年に一度の大雨に対応できるようになった河川の現状。さらに、単なる災害復旧事業にとどまらずに、地域住民にとって身近な川、自然環境に優れた川への回帰を目指す「能代川プロジェクト」など、豊富な資料を基に話を聞くことができた。

3 成果と課題

今年度は、まず教師自身がかもって地域に目を向け、もって深く地域を知るということで五泉ニット産地の新たな動き。あるいは、災害復旧工事にとどまらず、地域住民と川とのかかわり方も視野に入れた、河川改修の現状に触れてきた。今後、今回得た知見を活かした単元開発を行い、実践を積み上げていくことが大切である。

能代川の改修に関しての実践を行った学校では、早速新津地域整備部からさらなる資料提供を受け、子どもたちにとって河川改修がより身近に感じられる授業を展開することができた

今年度の研修会で得た各種資料や映像を各校で保管するだけでなく、実践例の蓄積や資料の活用方法をまとめた「地域教材ハンドブック」作りなど、今後手がけていきたい。